


コ ン テ ン ツ	ピーター・モリス氏を迎え、P2M普及講演会開催 PMS講習会 受講生募集中 PMS合格者830名に（PMS資格試験発表） P2M人材育成地方研修会 各地で実施中 沖縄P2M普及講演会を実施 P2Mクラブ特別講演会を開催 フランス リール大学院でP2M特別講座を開催 明治大学でP2Mオープンセミナーを開催	vol.6 2003.10	PMCCニューズレター
			特定非営利活動法人 プロジェクトマネジメント資格認定センター

P2Mに期待すること・・・経済産業省 村崎室長



これまでご支援をさせていただきました、国際プラント推進室 後藤が8月31日付で産業技術環境局に転出し、私が後任として着任いたしました。

経済産業省 村崎室長

P2M開発について 2001年に、日本版PM知識体系「P2M標準ガイドブック」が完成しました。これは1999年から日本の実務風土を反映させた新しいPMの必要性を考え、シドニー工科大学小原客員教授を中心とした実務家の皆様による“PM導入開発調査委員会”で3年間研究された大きな成果であります。また、それを基本にした新しいPM資格認定制度が制定され、PMCCで運営・実施されています。

人材育成プログラム開発事業 本年度経済産業省が実施しております、産業競争力強化と新しい市場・雇用創出をめざした“人材育成プログラム開発事業”も、PMCCのご協力のもと一步一步着実に成果を上げております。本事業では、人材育成のための教育カリキュラム、テキスト等の教材開発を行い、企業におけるP2M人材の育成のための環境整備を図るものになります。こうした環境整備を通して、PM人材の育成を加速させ、企業の価値創出・向上を図り、日本の産業競争力強化につなげていきたいと思っております。

P2Mコンセプトの活用 各産業界においても、課題はそれぞれ異なったものであると思っております。しかし、大きな枠で考えれば、その課題解決には、複数の課題(プロジェクト)を統合して全体最適化を図るプログラムマネジメント手法が役立つのではないかと思います。このP2Mコンセプトを活用して、それぞれの分野で新しい改革に挑戦して頂きたいと思っております。経済産業省といたしましても、日本の産業競争力の向上につながるものとしてP2Mの推進に必要な支援をしていきたいと考えています。

ピーター・モリス氏を招聘してP2M普及講演会

PMCCでは、11月4日 ロンドン大学 ピーター・モリス教授を招聘して「P2M普及拡大講演会」を東京で開催します。P2Mをより多くの方々にご理解いただくために、関係者をお誘いの上、奮ってご参加ください。

～ネットワーク新時代とプロジェクト&プログラムマネジメント～

- ・日程 平成15年11月4日(火) 13:00～17:30
- ・会場 全電通ホール(東京 御茶ノ水)
- ・主催 プロジェクトマネジメント資格認定センター
- ・協賛 (株)富士ゼロックス総合教育研究所
- ・プログラム
 - ・日本発P2Mの意義
経済産業省国際プラント推進室長 村崎 勉氏
 - ・ネットワーク新時代とP2M
慶應義塾大学教授 国領 二郎氏
 - ・世界のプロジェクトマネジメントの潮流とP2M
ロンドン大学教授 ピーター・モリス氏
 - ・新しいプロジェクトマネジメントP2Mの真髄
シドニー工科大学客員教授 小原 重信氏
- ・参加費 3,000円(資料代として)

講演テーマは、変更されることがあります。

ピーター・モリス教授 (Dr. Peter W.G. Morris)



モリス教授は、国際的大企業を顧客とする国際マネジメントコンサルタントのINDECO社のExecutive Directorをされると共に、ロンドン大学のPMの教授もされています。代表的な著書

は、「マクロプロジェクトの成功と失敗」や「The Management of Projects」等があります。世界PM界の権威者で、93 - 96には英国PM協会の会長を務められました。講演では、欧米の各社における困難の実態と克服する為の取組み、その分析から導き出された新しいパラダイムの必要性についてお話いただきます。

Topics

PMS講習会 受講生募集中

平成15年度 第2回PMS講習会が、平成15年11月29日(土)～平成16年2月7日(土)の全8日間実施されます。今回は東京会場・名古屋会場・大阪会場・広島会場の全国4会場で実施されます。

申込受付期間

- ・東京会場 : 平成15年9月16日(月)～11月14日(金)
- ・名古屋会場 : 平成15年9月16日(月)～11月21日(金)
- ・大阪会場 : 平成15年9月16日(月)～11月28日(金)
- ・広島会場 : 平成15年9月16日(月)～11月21日(金)

本講習会は、厚生労働省教育訓練給付制度指定講座に認定されましたので、雇用保険加入期間等の条件を満足し、本講習を終了認定された方は申請によりハローワークから受講費用の一定額が給付されます。

講習会会場

- ・東京会場 : 国際ファッションセンタービル(墨田区)
- ・名古屋会場 : 中産連ビル(東区)
- ・大阪会場 : アーバネックス備後町ビル(中央区)
- ・広島会場 : アステールプラザ(中区)

なお、クラス別スケジュールの詳細は、PMCC事務局までお問い合わせください。会員企業の皆様方の積極的な受講応募へのご支援をお願いいたします。

PMS合格者830名に(PMS資格試験発表)

8月31日(日)に実施されました、平成15年度第1回PMS資格試験には、東京・京都・福岡・広島・名古屋・仙台地区で合計741名が受験されました。受験者の業種は、情報システム、建設、専門エンジニアリング、電機・通信業など幅広い業界にわたっています。



本人通知およびPMCCホームページで行なわれ、324名が合格しました。PMS合格者は合計で830名になりました。

今回の合格率は、43.7%。このうちPMS講習会並びに人材育成プログラム開発事業地方研修会受講者の合格率は55.1%。非受講者は36.0%でした。

今回の合格率は、43.7%。このうちPMS講習会並びに人材育成プログラム開発事業地方研修会受講者の合格率は55.1%。非受講者は36.0%でした。

P2M人材育成 地方研修会 実施中

経済産業省の委託事業「人材育成プログラム開発事業」の地方研修会が各地で実施されています。

中部地区 名古屋研修会

中部地区で初めての研修会が、7月18日(金)～8月10日(日)名古屋中産連ビルで実施され、31名が受講されました。そのうち、8月31日に実施されたPMS資格試験に21名の方が受験されました。

北陸地区 金沢研修会

北陸地区で初めての研修会が、9月6日(土)～9月28日(日)全8日間56時間コースで実施されました。受講者は28名にのぼり、講師自らのPM体験を交えた講義に、熱心に耳を傾けました。



これからの予定

10月以降は、下記の研修会が予定されています。

- ・高松研修会 : 10月25日(土)～11月16日(日)
- ・札幌研修会 : 10月31日(金)～11月22日(土)

会員企業の積極的なご紹介・ご支援をお願いいたします。

沖縄 P2M普及講演会を実施

8月6日(木)、沖縄で初めてのP2M普及講演会を実施。参加者は当初の予想を大きく上回り、100名を超えました。沖縄でもP2Mへの高い関心と勉強をしたいとの熱意が感じられました。

開催にあたっては、沖縄電力様、FROM沖縄推進機構(NPO)様、那覇商工会議所様等の絶大なるご支援を頂きました。



また、講演会終了後 琉球新報社の小原教授への取材も行なわれ、「アジアの中核にある地理的特性を生かし、沖縄をP2Mのアジア拠点にしていきたい」との記事が、琉球新報(8月13日)に掲載されました。

P2Mクラブ特別講演会(第2回「会員の集い」)開催

8月27日(水)、第2回P2Mクラブ会員の集いを開催。今回は初めて、会員によるP2M実践事例発表を行ないました。会員の参加者は95名におよび、満員の会場で熱心に発表に耳を傾けました。



また、JPMFとの共催による特別講演として、インドにおけるPM実践事例の講演も行ないました。

P2M実践事例発表

- ・異文化の壁を越えるコミュニケーション
せき自作ロボット研究所 関 淑子 氏
- ・コンサルタントグループ活動の中での「展博出展プロジェクト」の推進
(社)日本経営士会会員ISU代表 植野 俊雄 氏

なお、講演資料はPMCCホームページの会員専用ページ「P2Mクラブ」からダウンロードできます。

フランスリール大学院でP2M特別講座 開催

7月21日から連続5日間、フランスリール大学院でP2M特別講座を開催しました。P2Mのプログラムマネジメントが中心の講義は、受講生からも高い評価を得て、P2Mグローバルスタンダードに向けての展開



のコアをつくることができました。

会員企業紹介シリーズ

川崎重工業(株) 様

P2M浸透による企業風土変革

川崎重工業では、社内技術研修の改革・強化の一環として1998年に「PM研修」を開講しました。狙いはグローバルなビジネス環境のもとでプロジェクトの実践力を発揮できる人材の育成にあります。開講以来、募集による受講生は5年間に600名あまりに達しました。

研修は、内外のプロジェクトにおいて豊富な実践経験を有する社内の

ベテランが講師を担当し、社内事例に関するナレッジをベースにした伝承教育と知識体系についての解説を行っています。

特に事前課題をもとにした事例研究において受講者間および講師との間で相互の意見交換を行うことにより、PM実践上の考え方を自ら学んでもらうようにしています。

またPMの考え方や手法についての普及活動の一環として、2001年のP2M発信とともに、P2Mの社内普及活動にも積極的に取り組んでいます。

社内各事業所を巡回し、P2M説明会を開催するとともにPMS資格取得を奨励しており、過去2回のPMS資格試験で22名が合格しました。

さらに、社内イントラの全社掲示板として「PMプラットフォーム」を立ち上げ、PM研修既受講者を含む広範囲の関係者を対象にして、P2M情報を発信しています。

このような社内研修や地道な啓蒙活動を通して、PMの共通言語化を推進し、P2M思想の浸透による企業風土の変革を目指しています。

明治大学でP2Mオープンセミナーを開催

9月18日(木)、明治大学リバティ・アカデミーの協賛で、「P2Mオープンセミナー」を開催しました。

三井物産戦略研究所所長 寺島 実郎氏の特別講演の後、P2Mセミナーでは、経済産業省製造産業局 吉岡 孝氏、シドニー工科大学客員教授 小原



重信氏、IBMビジネスコンサルティングサービス(株) 芝尾 芳昭氏などの講義があり、250名が参加されました。

また、明治大学リバティ・アカデミーでは、10月11日と18日の2日間、社会人を対象とした「P2M集中講座」を開催します。申込等の詳細につきましては、PMCCまでお問い合わせください。

国際シミュレーションゲーミング大会に参画

8月25日～29日迄、日本シミュレーション&ゲーミング学会(JASAG)主催の国際シミュレーション&ゲーミング学会(ISAGA)の世界大会「ISAGA2003」が開催されました。PMCCも後援団体として「P2Mシミュレーション&ゲーミング」のセッションを担当しました。



マレーシア国際PM大会2003に参加

9月8～9日、クアラルンプールでマレーシア初の国際PM大会が開催されました。日本からは小原教授、千葉工業大学 新井教授、PMCC石倉事務局長が参加し、P2Mを広くアピールしました。

P2M関連 商標登録のお知らせ

P2M、PMCC関連の商標登録が承認されました。

		商 標	
1	P2M ピーツ-エム	2	
3	プロジェクトマネジメント・スペシャリスト Project Management Specialist (PMS)		
4	プロジェクトマネジャー・レジスタード Project Manager Registered (PMR)		
5	プログラムマネジメント・アーキテクト Program Management Architect		

PMCC広場

～ PMS資格試験合格者の一言～

1～2月に渋谷で受講対策講座が行われ、寒風の中を大阪から4回ほど通いました。今回より遠隔地受講者向けに土・日コースが設定され、出張回数は半減しましたが逆に講義内容が2倍に濃縮され、ついて行くのが結構大変でした。P2Mの知識体系は非常に広範囲・多岐に亘り、新しい概念・用語も多く、1～2度の学習ではなかなか頭に残りません。そこで標準ガイドブックを単元ごとにバラバラに切り裂き少しずつ持ち歩いて勉強しました。

試験の方はハッキリいうと散々でした。問題の読み取り・理解に時間がかかり、後回しにした計算問題をやる時間がなく、見直しもほとんど出来ませんでした。半分あきらめていたところ約1ヶ月後に封筒が届き“合格”の連絡で、“自分によかった”と胸をなでおろしました。年頭に会社の朝会でP2Mの紹介とPMSへの挑戦を宣言していましたので、きっとそれが頑張りを支えてくれたと感じています。

私は13年前に松下電器で企業内ベンチャー会社を立ち上げ、経営責任者として複数のITプロジェクトを管理しています。これまでは勘と経験と度胸、いわゆる“KKD”の対応が多く、個人に従属した仕事のやり方になっていました。P2Mではそれを知識体系として整理し、組織での情報共有を図り反復可能で評価の出来るものにまとめ上げていると思います。

今後はP2Mを会社経営のバイブルにして、成熟度(CMM)の向上を図りたいと思います。

株式会社エクセルソフト 酒井 清則 様

プロジェクトマネジメントの歴史とその推移

プロジェクトマネジメントからプログラムマネジメントへ
これから本格的にP2Mの話に入ります。インターネットの発達によって、情報の流れが活発となりました。その結果商品寿命が短縮化され、次々と新しい商品が市場に出るようになりました。新しい商品は消費者の潜在的ニーズを満たすもので、新しい技術が複合的に採用されています。これらの社会現象を社会の不確実性と複雑性が増したとP2Mでは捉えます。

商品寿命が短くなったことで、企業は新商品を開発する源泉として社員の持つ潜在的能力であるナレッジを活かす動きが出てきました。これがナレッジマネジメントです。残念ながら従来からある機能組織はこれらナレッジを有効に活用する体制にありません。そこでプロジェクト組織が注目され、今PMが世界で大流行しています。

さて、PMに詳しい方はご存知と思いますが、PMは「目的・目標」を明確にするところから出発します。次にWBS「Work Breakdown Structure」といってすべての業務を書き上げ、仕事に落ちがないようにプロジェクトを進めます。ところが最も確実にすばやく仕事をこなすはずのPMで最近失敗率が高くなっています。理由は簡単です。先に説明しましたように社会の変化が激しく、不確実性と複雑性が増したからです。「あいまいで複雑な問題」を扱う際、従来のPM手法では簡単に「目的・目標」を明確にしたつもりで仕事を進めます。このため業務の途中で原点に戻り再検討を始めることが多くなりました。

ここでP2Mが登場します。「あいまいで不確実性が高く、複雑な問題」をプロジェクトとして認識することをやめ、プログラムでとらえ、プログラムの中に含まれる多くの課題を複数のプロジェクトとし、プログラムの価値が最適となるプロジェクトの組み合わせを行い、社会の変化に適応した新しい価値創りを主眼とするPMを立ち上げました。
(芝 安曇)